猿沢・鷺池散策と奈良国立博物館　　2021.2.17

ー　特別展示「お水取り」観覧　ー　ご案内

企画委員会

3月12日は東大寺お水取りのクライマックス、籠松明が登場し、例年二月堂は大変な人出で賑わいます。今年はコロナ防止のため終日二月堂付近は立ち入り禁止、それでも春日野園地にライブスクリーンが設置されて、多くのお水取りファンが集まると予想されます。
今回は、東大寺の人出を避けて、比較的静かな景勝地、猿沢池周辺をご案内します。
南都八景のひとつ“猿沢池”は古都の風情が印象に残る景勝地ですが、多くの伝説が伝わる不思議な池でもあります。また興福寺の子院である菩提院大御堂、ここは伝説「三作石子詰め」からヒントを得て近松門左衛門が生み出した浄瑠璃「十三鐘」の舞台でもあります。古都奈良の伝説と静かな散歩道、最後は奈良国立博物館で「お水取り」の特別展示をお楽しみください。

記

実施日：2021年3月12日（金）

前日17時TVNHKの天気予報　奈良北部　午前・午後の
降水確率60％以上で中止。

集合場所：　近鉄奈良駅　駅前広場(行基像前)

集合時間：　10時30分　＜A グループ＞　1班　・　4班　（班別集合）
　　　　　　11時　　　＜B グループ＞　2班　・　3班　（班別集合）

解散時間：　13時30分～14時ごろ（班別解散後、奈良国立博物館の特別展示を自由見学）

コース：　近鉄奈良駅（班別スタート）⇒ 猿沢池めぐり⇒ 菩提院大御堂
⇒ 春日大社一の鳥居 ⇒ 荒池（昼食）⇒ 鷺池（浮見堂）
⇒ 片岡梅林 ⇒ 奈良国立博物館前（チケット配布・班別解散）
〈奈良国立博物館特別展示「お水取り」自由見学〉
⇒各自バス(博物館前バス停) 又は徒歩で JR 又は近鉄奈良駅

案内人：（1班）玉尾、（2班）村上、（3班）中澤、（4班）竹山

歩く距離：　3キロ（帰路をバス利用の場合）～　4キロ

費用：　奈良国立博物館観覧料　700円・・・科負担（70歳以上は無料　証明書呈示要）

※ A 班の昼食は12時～、B 班は12時30分～　30分程度を予定しています。
基本的に班別行動となります。ソーシャルディスタンスにご協力お願いします。

持物：　お弁当、飲料、雨具、マスク、その他防寒用品等

参加申込　3月7日までに　各班幹事まで参加申込をお願いします。

猿沢池

周囲 360mの興福寺の放生池。天平 21 年(749 年)に造られた人工池である。興福寺五重塔と月が水面に映る風景は奈良八景のひとつ。帝の寵愛を失い池に身を投げた采女(うねめ)伝説で知られ、仲秋の名月には「采女祭」が開かれる。昔より猿沢池の水は “澄まず、濁らず、出ず、入らず、蛙はわかず藻もはえず、魚七分に水三分といわれ、猿沢池の七不思議として伝わる。実際にはアオコが繁殖して関係者を悩ませているという。

采女神社　うねめじんじゃ

春日大社の末社。昔、帝の寵愛が薄れたことを嘆き悲しんだ采女が猿沢池に身を投げたため、
その霊をなぐさめるために建てられたという伝説が残されている。
采女の霊は「わが身を投じた池を見るのは忍びない」と一夜で社を後ろ向きにしたと伝わる。
社は西向きで鳥居は東側に建てられている。
毎年中秋名月の夜、采女の霊をなぐさめる采女祭りが奉納される。

率川(地蔵尊)　いさがわじぞうそん

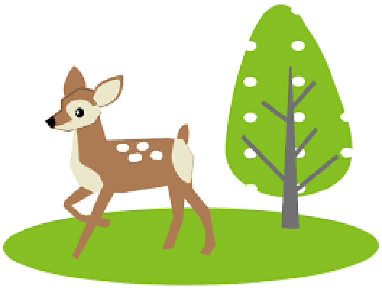
石で作られた舟形の島に十数基の石仏が安置される。
戦後、進駐軍の命令で河川を改修した際に掘り出された石仏をまとめたのではないか？といわれている。

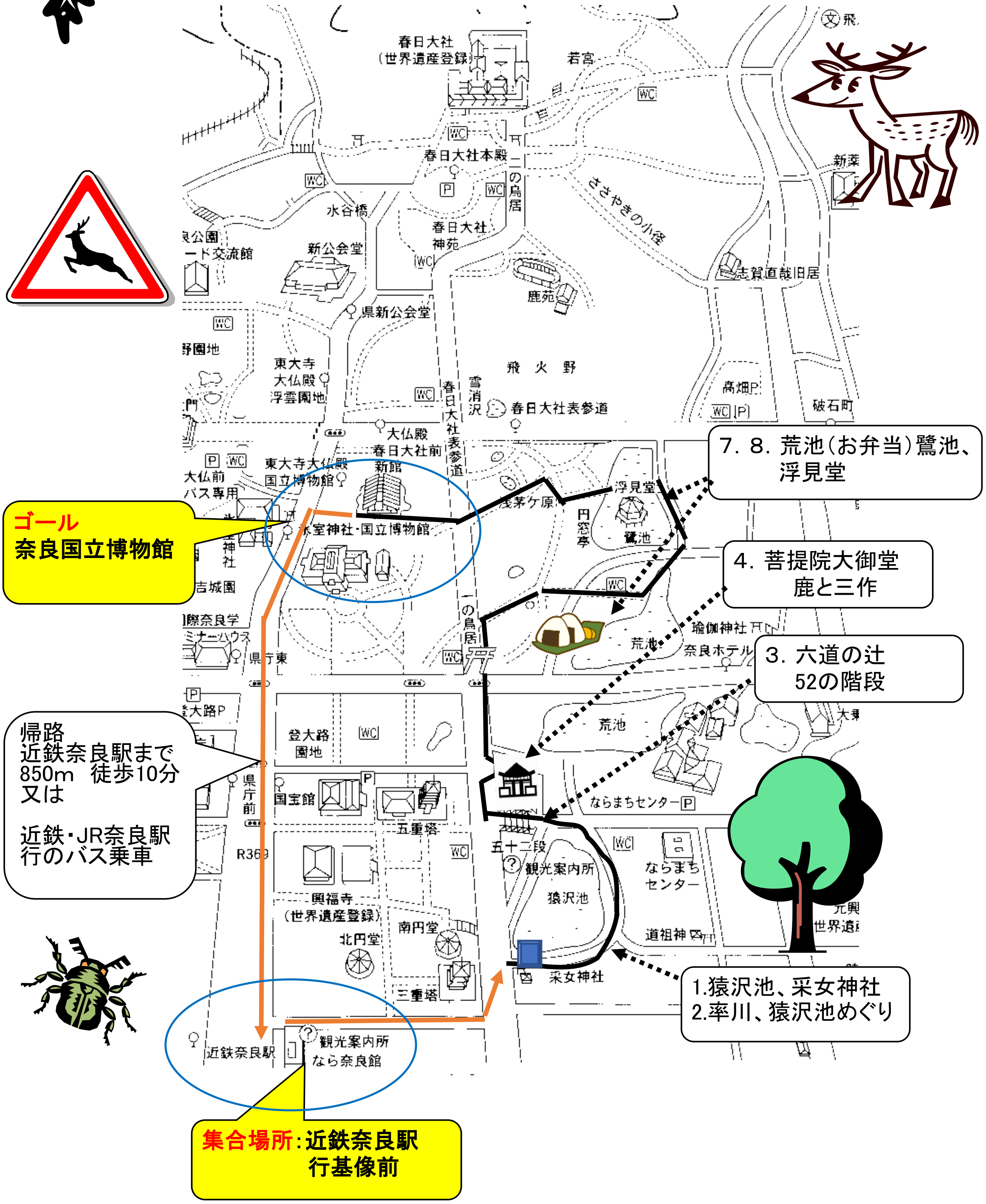
六道の辻　りくどうのつじ

冥界の入口。あの世とこの世の分かれ道。
六道とは仏教が説く六つの世界、上から天道、人間道、阿修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道を指す。
生きとし生けるものは死んでまた生まれ変わるとする「輪廻転生(りんねてんしょう)」の考え方から
生前の行いや思いなどに応じて六道のどの世界に生まれ変わるかが決まるとされる。

菩提院大御堂　ぼだいいん　おおみどう

興福寺の子院。社伝では奈良時代、玄昉僧正により創建されたと伝わるが、実際には玄昉の菩提を弔う一院として造営されたという説もある。現在の堂は天正 8 年(1580 年)の再建であるが、元は鎌倉時代に遡るという。
鐘楼にかかる梵鐘は永享 8 年(1436 年)の鋳造で、かつては昼夜十二時、明け七つと六つの間の
早朝勤行の時にも打たれたことから、「十三鐘」(じゅうさんかね)という通称で親しまれている。
元禄時代、近松門左衛門の草した浄瑠璃『十三鐘』は、春日神鹿をあやまって殺した少年三作を、
石子詰の刑に処した伝説に基づいており、大御堂前庭にその塚がある。



猿沢・鷺池と奈良国立博物館　ルートマップ

2021/2/28